



もりや仙一郎便り

県政報告 Vol.8

さくらんぼ 不作問題 「3年連続」 受粉樹対策・販売戦略の推進を

今年では一般質問での「さくらんぼの今後の対策と販売戦略」の質疑内容を紹介します。来年の収穫高増・販路拡大を目指し、様々な対策が始まるうとしています。

作柄安定に向け 紅シリーズの販路拡大を

●森谷仙一郎

本県のサクランボは、全国の栽培面積の65%、収穫量70%を占めており、いままでもなく本県を代表する果物となっている。

今年度の総括が、現在進んでいるが、3年続けての不作になると思われる。冬より様々な講習会を開催して取り組んでい

るが、残念な結果になった。原因は例年のように開花時期の天候不順というのが大方だ。県の技術指針では受粉樹の導入本数を、ほぼ全体の3割確保することになっている。これは安定した収穫には必要不可欠で、問題は、受粉樹の販路が確立されているかどうか。県の奨励品種紅シ

〔山形県〕 さくらんぼ結果面積収穫量推移

区分	結果樹面積	収穫量	10a当たりの収穫量
平成14年	2,540ha	15,500t	612kg
平成15年	2,570ha	14,000t	547kg
平成16年	2,640ha	10,800t	410kg
平成17年	2,700ha	13,200t	487kg
平成18年	2,810ha	14,900t	532kg
平成19年	2,850ha	11,100t	390kg
平成20年	2,890ha	12,000t	416kg
平成21年	2,900ha	12,000t	414kg

●農林水産部長

残念ながら本県のサクランボの収穫量は3年連続で平年を下回っていることが見込まれている。

さくらんぼ全体の販売戦略としては引き続き佐藤錦を主力としながら早生品種から晩生品種まで紅シリーズを5品種を投入し、出荷期間の延長による市場シェアのいっそうの拡大を図る環境を作る必要がある。この場合、受粉中の導入が何よりも大切と認識しており、今年度から3年間で佐藤錦に対する受粉樹の混植割合を3割するといった計画を立てており、受粉樹苗木の販売ルートであるJA全農と協力しながら促進したい。

また、県産サクランボの販路拡大については日持ちのする紅秀峰について関西圏での販売数量が増加している。今後は輸出も視野に入れ、この傾向を生産者・関係団体と一体となって強力に進めたい。

現在、天童市北部地区で国の「まちづくり交付金」を活用した地域創造支援事業「安全安心まちづくり事業」が展開されています。

生活基盤向上を目的に 道路拡幅 「まちづくり交付金」で

この事業は、地域の生活基盤の向上と、災害時の不安を解消するべく計画されたもので、土地区画整理事業未実施地区のモデルケースとして進められております。事業内容は、北久野本1号沿線歩道上にある電柱の移転や、道路拡幅整備、待避所・側溝整



▲北久野本町内の道路拡幅工事

備、さらには地域生活基盤施設として「ひかり交流広場(公園)」と同広場の耐震性貯水槽建設など北久野本地区全域で工事が行われております。同事業の総事業費は約

6億5千万円。事業期間は平成24年までとされ、今年度末の予定進捗率は60・3%を目指しています。さて、国では「事業仕分け」が終了しました。仕分けによる財政効果は1兆6千億円超。過去最大に膨らんだ概算要求95兆円から3兆円を削減しようとしています。

しかし、今回の事業仕分けでは「地域の声」が完全に無視されない部分に憤りを感じます。そもそも、山形県は高速道路を筆頭にインフラ整備がまだまだの状態、未整備部分の予算削減などは

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

メコバチ等が十分に活動できない状況が浮き彫りとなり「地域ブランドの格付け」で、毎年最上位にランクされるなど「日本の名品」として確固たる地位を築いております。今後、山形県のシンボルとして「さくらんぼ王国」の評価をゆるぎないものとしていかなければなりません。

現在、多くの作物が栽培面積を縮小する中で、サクランボだけが栽培面積を維持している現状が「開花期の低温と強風・降雨」等が挙げられます。「今年の開花は平年より早く、その後、数日低温が続く。満開期が遅れた。さらに強風と降雨の影響で花粉が減少、マ

フォラムでは、今年度の不作原因のひとつとしてメコバチの活動が見込めるなどの効果があるとき、同課が行った実験結果でも、早期被膜と人工授粉を施した圃地の結実率がもっとも高かったと報告しております。

今後の対策・施策に思うこと

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

また、現在の栽培農家に「雨よけハウス被膜が大変」など高齢化から生じる問題や、農繁期の人手確保など、労働力の問題も山積しています。生産性の安定には農作業の省力化技術開発も課題とされました。

今後、生産者と関係団体が一体となって、将来を見据えた取り組みを行っていかねばなりません。

さて、県では今年度から農林水産業活性化を目的に、産出額の増大を図るため「農林水産業創意思工プロジェクト支援事業」を開始しております。これは、生産者の創意工夫を富んだプロジェクトを推進するもので、200万円以上で上限な

もりや仙一郎事務所

ご意見を募集しております。FAX・メール・ブログで 頂けると幸いです。

☎023-658-2355 FAX023-658-2356

〒994-0103 天童市大字川原子 1640

もりや仙一郎

検索

http://blog.goo.ne.jp/furusato-08

ブログにて、日頃の活動の報告を公開しております。



QRコードでアクセス